

複式学習指導実践事例（国語）

第3学年（4 / 15）

第4学年（6 / 16）

(1) 目標

「中」のそれぞれの段落の内容を読み取り、例の書き方やその順序など説明の仕方の工夫を見つけることができる。

「初め」「中」「終わり」のまとめりに中心となる語や文を捉え、文章を要約することができる。

(2) 実際

評価（☆）

教師の具体的な働きかけ	主な学習活動（第3学年）	避	位置時間	避	主な学習活動（第4学年）	教師の具体的な働きかけ
<ul style="list-style-type: none"> ○ 文章全体の中心となる話題を確認する。 ○ 前時の「問い」に対する「答え」を見つけるだけでなく、「答え方の工夫」を見つけるということ意識付ける。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 前時の学習を振り返る。 2 本時のめあてを確認する。 大豆をおいしく食べるためのくふうをつたえるために、筆者はどんなくふうをしているのだろうか。 	振り返る・つかむ	7	つかむ	<ol style="list-style-type: none"> 1 本文を音読する。 2 前時の学習を振り返る。 3 本時のめあてを確認する。 「世界にほこる和紙」を要約するには、どんなことに気が付いたらよいのだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「中」の事例が、何の説明のために述べられていたか確認する。 ○ 中心となる語や文を使って、「世界にほこる和紙」を200字以内で要約することを確認させる。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「問い」の「答え」になる部分が、各段落の中心となっていることを押さえさせる。 ○ 大事な文となるところが各段落の最初にあることに気付かせる。 ☆ 「初め」とのつながりを考えて、各段落の大事な言葉を見つけているか。 	<ol style="list-style-type: none"> 3 「中」のそれぞれの段落の大事な文を確かめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「問い」の「答え」となっている文をさがす。 ・ 「答え」（大事な文）がある場所の共通点について考える。 ・ 筆者は、なぜ各段落の最初に「答え」を書いているのか考える。 	見通す	8	見通す	<ol style="list-style-type: none"> 4 「初め」「中」「終わり」のまとめりに中心となる語や文を考え、整理する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 繰り返し使われている言葉をさがす。 ・ 筆者の思いや考えが表れた文章をさがす。 ・ 絶対に外せない言葉や文、外してもいい文はないか、ほかの言葉に置き換えられないか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「和紙のよさを伝える」ために、筆者が説明していることを押さえさせる。 ○ それぞれの段落ごとに、中心となる語や文を出し合わせ、理由もつけて検討させる。 ○ 200字の制限の中で述べるために、他の表現に置き換えられないか話し合わせる。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 加工の言葉だけでなく、写真も活用することで、事例の順序性を視覚的にも捉えることができるようにする。 ○ 事例が、加工の単純なものから複雑なものに並んでいるのはなぜなのか考えさせる。 ☆ 接続語に着目し、事例の順序の工夫について考えているか。 	<ol style="list-style-type: none"> 4 「中」の順序について考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ なぜ、「いる・にる」「ひく」「栄養だけを取り出す」「小さな生き物の力を借りる」の順序なのか考える。 ・ つなぎ言葉「次に」「また」「さらに」について考える。 	調べる	15	調べる	<ol style="list-style-type: none"> 5 「世界にほこる和紙」を整理したことをもとに、要約する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「和紙のよさ」を伝えるために、繰り返し出てくる言葉や、まとめりの中心となる文を考える。 ・ 筆者の思いや考えを考える。 ・ 「和紙のよさ」を伝えるために欠かせない言葉や文を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 要約のポイントを押さえられるように、掲示しておく。掲示資料を使って、再確認させる。 ○ 「初め」「中」「終わり」の大まかな文字量を示し、見通しをもって学習を進めることができるようにする。 ☆ 中心となる語や文を考えながら、目的を意識して文章を要約しているか。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 筆者の説明の工夫を自分の「食べ物のひみつ」の作文の説明にどのようにいかしていくか問うことで、本時の「読み」を「書き」にいかしていくことを意識づける。 	<ol style="list-style-type: none"> 5 本時の学習を振り返り、次時の学習への見通しをもつ。 読み手に分かりやすく伝えるために、一番わかりやすいものから順に説明している。 	広げる・深める	8	広げる・深める	<ol style="list-style-type: none"> 6 本時の学習を振り返り、次時の学習への見通しをもつ。 筆者の和紙への思いとその理由を落とさないように書くと、筆者の伝えたいことがよく分かる要約ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 筆者の伝えたいことがよく分かる要約にするためには、筆者の思いや考えとその理由をどうまとめるかが大切なことを押さえる。自分の表現でも、思いと理由を明確に示すことを意識づける。

(3) 評価

- ・ 「初め」とのつながりを考えて、各段落の大事な文を見つけている。
- ・ 接続後に着目し、事例の順序の工夫について考えをもっている。

- ・ 中心となる語や文を考えながら、目的を意識して文章を要約している。

